

第1回「安心・活力・発展プラン2005」推進委員会 主な委員発言要旨

【安心】

(子育て関連)

- ・ 託児所の設置など、子育て中の母親の就業支援がもう少し必要ではないか。
- ・ 核家族が進む中、病児・病後児の保育をどうするかという問題があり、看護学校でも病児・病後児保育ができると良い。

(高齢者関連)

- ・ 認知症を含め高齢者を地域で支え合うことができる体制ができれば、介護から離れて就業できる人も増えると思われる。
- ・ 認知症について、より多くの県民に理解してもらうため、広く県民に認知症を周知していくことが必要である。

(環境関連)

- ・ オオサンショウウオが生息する地域として、環境面や教育面から情報発信し、観光や地域づくりに役立てればよいのではないか。
- ・ ジオパークは、グリーンツーリズムやブルーツーリズムなどと併せて、観光の観点からの取組も必要である。

(災害関連)

- ・ 災害時などは、隣保班の繋がりが大事になってくると思われ、もっとコミュニティを重要視してもらいたい。
- ・ 今回の豪雨災害では、防災無線が聞こえないほど雨音が激しかったが、このような場合の対応を検討すべきである。

【活力】

(農林水産業関連)

- ・ 農業については、加工需要にもっと目を向け、生産者と加工業者がうまくタイアップできる仕組みづくりが必要である。

(商工業関連)

- ・ 企業誘致では、地元でもできる仕事が県外企業に回ってしまい、県内企業を圧迫する面もある。
- ・ 経済情勢の厳しい中、今後、撤退する企業も出てくる可能性があり、それに伴って優秀な人材が流出することのないよう対策を進めてもらいたい。

(エネルギー関連)

- ・ 再生可能エネルギーである温泉熱、地熱は、大分県の大きな財産であり、ツーリズムとも関わりが深いので、部局連携を図りながら取組を進めても

らいたい。

- ・電力買取り制度では、思ったよりも買取り価格が上昇しており、再生可能エネルギーの目標値は上方修正してもよいのではないか。

(雇用関連)

- ・大卒の離職率が5割に近付いており、大学としても就業力の養成を実施しているが、大きな課題である。
- ・若年者の就業については、若い人がどのような就業を求めているのかをしっかりと把握する必要がある。

(観光関連)

- ・全国大会の誘致に向けて、会場をコーディネートしてくれるセンターを設置できないか。

【発 展】

(教育関連)

- ・幼児教育を担う幼稚園の教員の人材育成とともに、幼稚園の先生の就職定着率の向上を図ってもらいたい。
- ・ジオパークは、優れた理科の教材になるので、子どもの学力向上に役立てるよう検討してもらいたい。

(芸術・文化関連)

- ・県立美術館については、設立後の経済波及効果を試算し、その目標設定をしておいた方がよい。
- ・県立美術館は、金沢や瀬戸内の美術館を参考にしながら、子どもに限らず、高齢者、認知症、障がい者も楽しめるような美術館づくりを目指していくべきである。

(スポーツ関連)

- ・公園で親子が気楽にスポーツを楽しめるよう公園内にトラックなどを作ると良い。

(情報関連)

- ・情報基盤の整備については、今後は、IT産業のパワーアップ、農業や教育へのIT支援、災害時のへの情報伝達などへのさらなる活用が重要である。